



WITH



2023. 6. 16 (金)

北海道東川養護学校 子供支援部

<http://www.higashikawayougo.hokkaido-c.ed.jp/>
e-mail:higashikawayougo-z1@hokkaido-c.ed.jp

こんにちは、東川養護学校子供支援部です。新学期が始まって2か月が経ち、子どもたちも新しい学校生活に慣れてきたころかと思います。本校では高等部3年生が5月下旬に関東方面へ見学旅行に行ったり、中学部が東川町内に校外学習へ出かけたり、小学部はたくさんの声援のなか運動会が行われたりするなど、感染等に気を付けながら、少しずつコロナ前の学習の形に戻ってきています。

今年度も皆さんと一緒に特別支援教育の充実に向け、様々な形で連携を図っていきたいと思いますので、よろしくお願いたします。「WITH」では、本校子供支援部より特別支援教育に関わる情報発信を行います。ご意見、ご質問等ありましたら上記アドレスまでご連絡ください。今年度もよろしくお願いたします。

～パートナー・ティーチャー派遣事業、たいせつネット訪問相談に関わって～

今年度もパートナー・ティーチャー派遣事業や、たいせつネット訪問相談で伺います。いつも参観しやすい授業設定や移動時間等を考慮した日程調整をしていただき、ありがとうございます。今年度もどうぞよろしくお願いたします。

パートナー・ティーチャー派遣事業

「パートナー・ティーチャー派遣事業」とは、学校や園の要請を受けて訪問し、お子さんの支援と一緒に考えます。申請は、各市町村教育委員会が窓口となっている事業です。本校では、東川、東神楽、当麻、旭川石狩川以南、美瑛、富良野方面の幼稚園・学校に訪問し、お子さんの支援について一緒に考えます。

※今年度のパートナー・ティーチャー派遣事業の申し込み受付は終了しています。

パートナー・ティーチャー派遣事業では、1校につき最大3回の相談を行っています。今年度につきましては、訪問は1回までとなっています。相談を2回以上希望される場合は、リモートで行うこととなりますので、ご協力よろしくお願いたします。



たいせつネット訪問相談

「たいせつネット」とは、旭川盲学校・旭川聾学校・旭川養護学校・鷹栖養護学校・東川養護学校・美深高等養護学校あいべつ校・旭川高等支援学校の7校が協力して、皆さんと一緒にお子さんの支援を考えていく組織です。

訪問相談では、保育園、幼稚園、各学校、デイサービス等に訪問し、お子さんの支援について一緒に考えます。申し込みにつきましては、たいせつネットHPにあります「たいせつネット訪問相談希望届」を、FAXもしくはメールで、たいせつネット事務局（旭川高等支援学校）に送信してください。過年度から継続して訪問相談を行っている園や学校につきましても、改めて提出していただきますようご協力をよろしくお願いたします。

たいせつネットHP (<http://www.taisetsunet.hokkaido-c.ed.jp/>)



～スクールカウンセリングを用いた児童生徒理解～

スクールカウンセリングとは、児童生徒の心理的な発達を援助する活動であり「心の教育」「生きる力を育てる」ことが目的となります。カウンセリングマインドをもった教員がすべての児童生徒を対象として援助していきます。カウンセリングマインドとは、以下の3点です。

①傾聴：相手の語りに耳を傾け、じっくりと聴きましょう。

②共感：相手を感じているように共に感じましょう。

③受容：これまでのがんばりを肯定的に認めましょう。



※相談者が自分自身を受容することで、はじめて目標に向かっていくことができます。

関わり方のヒント ～児童生徒の持つ「リソース」を探してみよう～

リソースとは、すでに有るものや持っている力などの、資源・資質・能力のことです。

「能力」「興味・関心」などの得意分野は内的リソース、「家族」「友人」「地域」「外部機関」は外的リソースと呼ばれます。

具体的なケース(例)

Aさんは、小学校入学時から緊張が強く、人前で話せなくなり、登校を渋るようになりました。本人によると、話題が決まっていれば話すことができますが、雑談のような話題が決まっていない時に話ができません。「空気を読めない発言をしたらどうしよう」「相手にどう思われるか不安」「気付いたら話を聞くだけで、話すことができなくなっている」とのことです。家庭では、普通に会話をするのに、外ではほとんど話をしません。登校が難しい日もありますが、友人らが一緒に登校してくれるなど協力もあり、登校できるときは登校しています。

Q:一言で、Aさんのことを「〇〇な子どもだ」というとなんか表現になりますか？

A:子ども指導援助への4つの視点

- ①場面緘黙な子ども、不登校傾向の子ども（査定・診断）
- ②社会性がない子ども、自我が弱い子ども（原因）
- ③自信がない子ども、緊張しやすい子ども（問題点）
- ④聞き上手な子ども、友人に恵まれている子ども（資源・資質・能力）



どの視点からのアプローチも間違いではありません。

「自信をつけさせる」ために、「みんなの前で発言する機会を設ける」も正解です。Aさんのリソースを活かす視点で言うと「聞き上手」の力を活用し、「みんなの意見をまとめる」役割を果たし、褒められる経験を積み重ねることも大切な視点かもしれませんね。



相談については、発達障害や精神疾患への知見もあるスクールカウンセラーとの連携もおすすめです。有効に活用しましょう。

参考文献の紹介



「指導援助に役立つ
スクールカウンセ
リング・ワークブック」
黒沢幸子著
金子書房